

▶ スコアボード ◀

キリンチャレンジカップ2013 日本対ガーナ
9月10日(火) 19:20K/O(予定) 日産スタジアム
第93回天皇杯全日本サッカー選手権大会
2回戦 9月11日(水) 19:00K/O ニッパツ三ツ沢
横浜F・マリノス 対(桐蔭横浜大×ヴァンラーレ八戸)勝者
3回戦 10月16日(水) 19:00K/O ニッパツ三ツ沢
9/11ニッパツ2回戦勝者 対(栃木SC×アビスパ福岡)勝者



発行 一般社団法人横浜サッカー協会
編集 同 広報委員会
〒220-0012 横浜市中区
みなとみらい6-2-1
TEL(045)662-4315 FAX663-5800
http://www.yokohama-fa.or.jp
印刷 神奈川新聞社
〒231-8445 横浜市中区
太田町2-23
TEL227-0808 FAX227-0785

魅力ある「横浜サッカー」を展開

新年度早々に開幕した横浜市長杯少年サッカー大会は、第40回という長い歴史を刻む記念すべき大会となり、大会発足当時と比べてはるかに技術的にも向上し、レベルアップされた熱戦が多く繰り広げられた。今夏も生涯サッカーとするシニアチームの訪韓。横浜ならではの日朝親善サッカー大会。また、幼稚園児を対象としたキッズ大会も盛り上がりを見せ、サッカーの年齢層の膨らみが表れてきている。今年度も横浜サッカーの特徴が現れたシーズンとなってきた。

優勝

マリノスLLバディーSLバディー 第40回横浜市長杯少年サッカー大会

第40回横浜市長杯少年サッカー大会は、L、LLの部は4月14日から、またSLの部は5月11日から始まり、7月7日に全てのカテゴリーの決勝戦で約3カ月にわたる熱戦の幕を閉じた。

予選リーグ、決勝トーナメントを戦い、Lの部では横浜F・マリノスPrがあざみ野FCを倒し優勝した。また、LLの部、SLの部では共にバディーSC-Sが優勝の栄冠を手にした。



◎SLの部	☆三位決定戦	品濃ウィングス	1-1	田奈SC
◎LLの部	☆三位決定戦	JFC F	1-0	バディーSC W
◎Lの部	☆三位決定戦	UTURO	1-0	バディーSC W
◎LLの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-0	バディーSC W
◎Lの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-1	バディーSC W
◎LLの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-1	バディーSC W
◎Lの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-1	バディーSC W
◎LLの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-1	バディーSC W
◎Lの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-1	バディーSC W
◎LLの部	☆三位決定戦	バディーSC S	2-1	バディーSC W

なお、LLの部では上記3チーム(バディーSCは1チーム)以外に順位決定戦を行い、SCH FC、FC左近山、日限山FCも揃って県U10チャンピオンシップ出場を決めた。

暑い、熱い戦い！ 今夏もビーチサッカー大会



今年も真夏の暑い、熱い戦い。ビーチサッカーが8月3日、4日金沢区海の公園ビーチで行われた。このビーチサッカーは、2008年に横浜開港150周年を記念して開催されたもので今回が6回目。ビーチサッカーはブラジルで発祥し、世界各地でレクリエーションとして行われてきた。1992年にアメリカ・ロサンゼルスにおいて統一ルールが設けられ、1993年に4カ国が参加して初の国際大会が開かれた。1995

少年からシニアまで交流 第52回日朝親善サッカー大会

第52回横浜市長杯争奪日朝親善サッカー大会が10日、17日の二日間にわたり、三ツ沢陸上競技場グラウンドなどで行われた。同大会は、横浜の在日朝鮮の人々とのサッカーを通じての交流を目的に1962年に始まったもので、半世紀以上の長い歴史を刻んでいる。

大会は、中学、高校、一般社会人、シニアと幅広い年齢層で対戦が行われ、横浜市長杯争奪戦は、横浜社会人選抜

8月10日	三ツ沢陸上競技場	横浜	2-1	神奈川
8月17日	三ツ沢陸上競技場	シニア	2-1	高麗FC
8月17日	三ツ沢陸上競技場	日本大学	8-0	神奈川朝鮮
8月17日	三ツ沢陸上競技場	高等学校	8-0	神奈川朝鮮
8月17日	三ツ沢陸上競技場	ニッパツ三ツ沢球技場	2-1	関東朝鮮
8月17日	三ツ沢陸上競技場	横浜市中学校選抜	2-1	関東朝鮮



横浜社会人選抜 0-5 F C

ハーフタイム

私事で恐縮ですが今年の夏、念願の槍ヶ岳に登ってきた。深田久弥の『日本百名山』の中で、富士山と槍ヶ岳は、日本の山を代表する二つのタイプであり、一般の人が一生に一度は登りたいと願うのが富士山であり、登山に興味を持ち始めた人が、頂上に立つてみたいと願うのが槍ヶ岳である。という主旨のことを述べている。富士山は今年、世界遺産となり空前の富士登山ブームとなっている。富士山はそんな意味で、数年前に家族で登ったことがあるが、定年後に登山を始めた私にとっても槍ヶ岳はあこがれであった。長い登山道を登り、尾根を越え、そして鎖場、梯子を使って垂直に登りきったときの達成感ほどの山よりも格別なものであった。韓国で行われた2013東アジアカップに新たな戦力で臨んだ日本代表が初優勝した。その頂上に立つことは代表選手にとってもサポーターにとっても多くの感動を与えるものであった。また、秋になれば多くの大会が始まり、試合が行われる。ピッチに立つ者の一人一人の努力が頂上を極めることになる。(梅)



＝横浜F・マリノス＝ ユース・Jrユース 日本一に! 全日本クラブユース選手権大会



高校生のクラブチーム日本一を決するadidas CUP全日本クラブユース選手権(U-18)大会が8月3日、ニッパツ三ツ沢球技場で決勝戦を迎えた。決勝は地元横浜F・マリノスユース対広島ユースの好カードとなった。試合は、両者互角の好ゲームで1-1の同点のまま延長に突入したがマリノス・ユースが粘りを見せ延長で3点を奪い合計4-1で見事に13年ぶり、5度目の優勝を飾った。

横浜ユースの松橋力蔵監督は交代策もうまくはまり「これまでうまくいけど...と多くの場面で言われてきたがこれであまりではないことが証明できてうれしい。」と語った。

また、2013年8月14日(24日)の間に北海道にて第28回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会が行われた。マリノスJrユースはFグループを1位で突破し決勝でFC東京深川と対戦、2-0でこれを下し優勝を飾った。U-18のマリノスユースと共に見事な兄弟優勝となった。

を蹴った後出勤、登校が日常茶飯事ということで、本当に頭が下がる思いです。このような真の体験ができる横浜サッカー協会に感謝すると共に、永きに亘り訪韓を継続していただいている諸先輩方の功績に感謝申し上げます。来年も可能な限りしたいと思います。思っており



(文・廣瀬正喜)

『Jリーグ20年と横浜サッカー』

(上)

元共同通信社
元W杯組織委員会広報報道部長

小山敏昭

今年、Jリーグ発足20年という節目の年を迎えた。長年、マスコミの立場から日本サッカーを見つめてきた元共同通信社・W杯組織委員会広報報道部長の小山敏昭氏に横浜サッカーにスポットをあて、今後の発展を期するための『Jリーグ20年と横浜サッカー』と題する原稿の執筆をいただいた。

1993年に日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)が始まり、今年で20年を迎えた。それから、日本のサッカー文化どころか、スポーツ文化すら変えた。Jリーグは、当時10チームで発足。今や40チームとその裾野を日本全国に広げた。その間に「横浜」がJリーグに関わったエピソードは計り知れない。横浜とJリーグの中からいくつかの話題を拾ってみよう。

▽横浜は何チーム
Jリーグの発足時、横浜市をホームタウンとするチームは、横浜マリノスと横浜フリューゲルス。2チームだった。だが母体企業の佐藤工業、全日空の経営不振もあって、わずか5年後の1998年横浜フリューゲルスが消滅、横浜マリノス

雨にぬれないスタジアムを

▽吸収合併して1チームになった。横浜フリューゲルスのイメージを残そうと横浜マリノスの名前に「F」を加え、横浜Fマリノスになった。しかし横浜フリューゲルスのサポーターたちはその後、横浜FCを立ち上げ、特別措置で日本フットボールリーグ(JFL)に参画を認められ、今や横浜FCはJリーグに復帰した。さらに1986年に全日空が買収したアマチュアの横浜サッカークラブもY

ムあり、日本のJ2に当たるF1部にはチャールトンFC、ミルウォールなど4チーム、合計では10チームもある。▽建築は最古でも環境は最低 Jリーグチームの中でも本拠地とする球技専用スタジアムで最も古いのが、ニッパツ三ツ沢球技場、東京オリンピックに備えて1955年に建設され、79年のワールドユース大会でも使用されて、2010年に一部改装された。現在は横浜FCがホーム

専用も含む)が7会場しかないことを考えれば、50年代に専用球技場を設けた横浜は先見の夢があった。ところがその後、国民体育大会やサッカーの2002年ワールドカップなどのため1998年に新設された横浜国際総合競技場(現在は日産スタジアム)は収容人員こそ72081人と日本最大なのにトラックが周囲に設けられ、グラウンドが遠い。音楽コンサートなど多用途で使用され

ることから仕方ないのかもしれないが、選手の表情は見えない、もともとスタンドから近くでサッカーを見たい。現在J1リーグ18チームのうち浦和レッズ(62010人収容)とセレッソ大阪(17877人)名古屋グランパスの豊田スタジアム(41267人)など半数以上の10チームが、サッカー専用競技場を使っているというのに。

日本はこのところ集中豪雨に見舞われるなど雨が多い。この雨を覆うのが屋根。「快適なスタジアム」を掲げるJリーグの各スタジアムの屋根カバー率が最低なのが三ツ沢。Jリーグによれば何と0.0%で、スタンドは関係者以外必ず雨や雪に濡れる。J1では甲府の山梨中銀スタジアムが最低で4.0%だが、J2は0.0%のところ京都の西京極、群馬の正田スタジアム、北九州の本城競技場と三ツ沢の4会場もある。この中で西京極は新設が決まり、北九州は2017年に新しく生まれ変わる。結局、三ツ沢と正田スタジアムが日本で雨対策の全くないスタジアム。

法人会 員 一 覧

横浜マリノス(株)
神奈川新聞社

(株) 横 浜 シ ミ ズ
(株) 横 浜 食 品 開 発
(株) J F E 東 日 本 ジーエス
(有) マ ル イ シ エ 芸
(株) 横 浜 アーチスト

熱い声援を受け 盛り上がる キッズゲーム



梅雨の合間の晴天に恵まれた6月29日にM.M.Sポーツパークで、今年度最初のスパーキッズゲームが開催された。32団体、48チーム、約500名のキッズたちが元気いっぱいピッチを駆け回り、応援の熱気は最高潮に達した。

援のお父さん、お母さんから熱い声援が送られていた。キッズゲームがはじまってから6年目となるが、年々盛んとなり、参加チーム数も増え、サッカーが低年齢まで普及してきている。同ゲームは年3回の開催が予定されている。

ダノンCUPへ マリノスプライマリー

5月11日から第37回全日本少年サッカー大会神奈川県予選大会が開催され、6月16日の決勝は横浜F・マリノスPrと伊勢原市の強豪リトルジャントSCが全国の切符を掛けて激突した。結果、実力では一枚上手のマリノスが4-0で全国の切符を手にした。

全国少年サッカー大会は久しぶりも予選で敗退してしまつたが9月に英国で開催されるダノンCUP世界大会の日本代表にもなっており今後の活躍に期待したい。